広報あつぎ

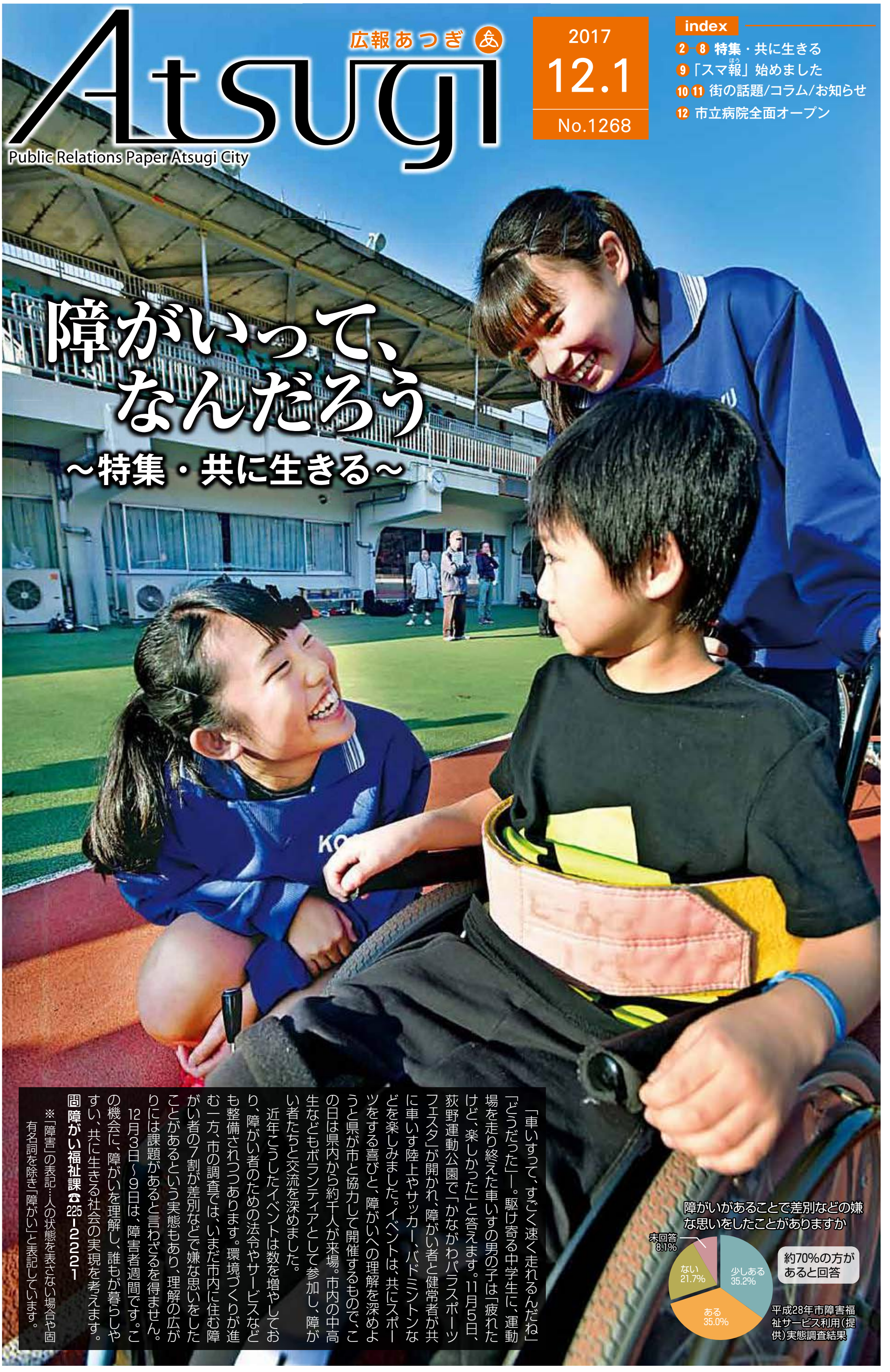
Atsugi

Public Relations Paper Atsugi City

2017
12.1
No.1268

index

2-8 特集・共に生きる
9 「スマ報（ほう）」始めました
10 11 街の話題/コラム/お知らせ
12 市立病院全面オープン



障がいって、なんだろう

～特集・共に生きる～

「車いすって、すごく速く走れるんだね」「どうだった」―。駆け寄る中学生に、運動場を走り終えた車いすの男の子は「疲れたけど、楽しかった」と答えます。11月5日、荻野運動公園で「かながわパラスポーツフェスタ」が開かれ、障がい者と健常者が共に車いす陸上やサッカー、バドミントンなどを楽しみました。イベントは、共にスポーツをする喜びと、障がいへの理解を深めようと県が市と協力して開催するもので、この日は県内から約千人が来場。市内の中高生などもボランティアとして参加し、障がい者たちと交流を深めました。

近年こうしたイベントは数を増やしており、障がい者のための法令やサービスなども整備されつつあります。環境づくりが進む一方、市の調査では、いまだ市内に住む障がい者の7割が差別などで嫌な思いをしたことがあるという実態もあり、理解の広がりには課題があると言わざるを得ません。

12月3日～9日は、障害者週間です。この機会に、障がいを理解し、誰もが暮らしやすい、共に生きる社会の実現を考えます。

問 障がい福祉課☎225-2221

※「障害」の表記…人の状態を表さない場合や固有名詞を除き「障がい」と表記しています。

障がいがあることで差別などの嫌な思いをしたことがありますか

約70%の方があると回答

平成28年市障害福祉サービス利用（提供）実態調査結果

編集・発行／厚木市広報課 〒243-8511 神奈川県厚木市中町 3-17-17 TEL.046-223-1511㈹ FAX.046-223-9951

特集 共に生きる

障がいって、なんだろう

障がい者と健常者が共にスポーツを楽しんだ「かながわパラスポーツフェスタ」（1面に掲載・以下パラフェス）。その裏側には、障がい者をサポートするために集まった多くの学生ボランティアの姿がありました。学生たちがパラフェスを通じて、「障がいとは」を考える様子を取材しました。

50人を超える学生がボランティアに臨んだ

車いす陸上の体験に参加する子どもをサポート

「少しは力になれたかな」「車いすに乗るのって疲れるんだね」「パラリンピアンの走りはすごかったな」―。ボランティアとして参加した学生たちが、活動を終え安堵（あんど）の表情を浮かべながら口々に話します。パラフェスを通じてさまざまなことを感じ、考えていました。

知るきっかけに

学生ボランティアの一部は、少しでも障がいに理解を深めて当日に臨もうと、1週間前に手話の研修を受けていました。手話サークル「あゆの会」の協力で、聴覚障がいのある永易（ながい）由紀子さんから、基本的なあいさつや自己紹介の他、手話以外のコミュニケーション方法なども学びました。

永易さんが自身の経験から「声が聞こえないからといって、後ろから急にたたかれてもびっくりしてしまうのよ」と手話で伝えると、学生たちは「そうだよね」「言われてみて気付いた」と納得した様子。手話の練習では真剣に指を動かしながら、自分の名前や気持ちの伝え方を覚えていました。研修に参加した水津颯（すいずはやて）さん（16）は受講後、「ちょっとの知識と勇気があれば、自分たちにもできることはたくさんあると感じた」と実感していました。

準備を率先して手伝う学生

選手と交流する参加者やボランティア

手話の講習を受ける水津さん（右）

共にスポーツを体験

パラフェス当日、集まった学生たちは会場の準備や受け付け、イベントのサポート役などを担当。訪れた約千人の来場者を笑顔で迎えました。

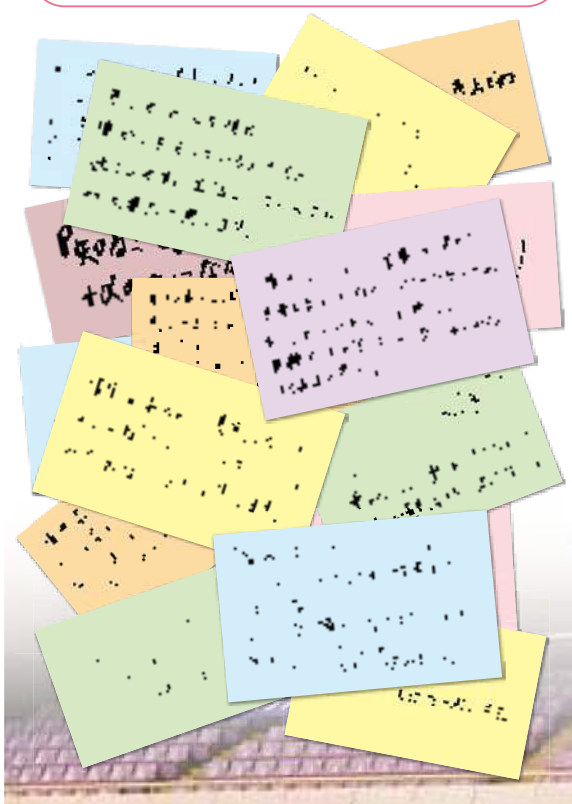
「車いすを押したり体験したりして、足の不自由な人の気持ちが少しだけ分かった」と話したのは、車いす陸上の体験を手伝った青梅（おうめ）怜那（れな）さん（14）。学生ボランティアの多くは、自身も来場者と一緒にゲームに参加し、車いすに乗る体験などをしました。青梅さんと共に陸上競技を体験した、足に障がいのある吉田早苗さんは「1年前に病気で足が動かしにくくなって以来、外で運動する気力がなくなっていたが、学生たちに元気をもらえた気がする」と交流を楽しんでいました。

触れ合いから見えたこと

「習った手話を使う場面はなかったけど、実際に障がい者と触れ合い、障がいは個性の一つなんだと分かった」と水津さんは振り返ります。今回の体験を周りにも伝え、今後も福祉関係のボランティアに参加したいと意欲を見せます。

障がい者と共に生きる社会の実現には、自分たちに何ができるか考え、行動した学生たちのように、互いに思いやり手を取り合うことが大切なのではないでしょうか。

学生ボランティアが感じた共生社会に大切だと思うこと



来場者だけでなく、ボランティアスタッフも一緒になってパラスポーツを体験した

特集 共に生きる

自分らしく生きる

障がいは、いつ「自分ごと」になるか分かりません。自分や身近な人が障がいを負ったとき、あなたならどのように受け止めるでしょうか。温水に住む赤瀬陽久(はるひさ)さん(53)の生き方から、障がいとの向き合い方、人と関わり続けること、支え合うことの大切さを考えます。

色紙サイズの絵を1枚3〜4日かけて描き上げていく赤瀬さん

「時間がかかる分、丁寧にできるとこもあんねん」。

絵筆を装具で固定した右手を包み込むように左手で支え、筆先を静かに置くと、ゆっくり押し出して色を付けていく。健常者の何倍もの時間をかけて描き上げた絵の中には、2羽のフクロウが柔らかな笑顔で寄り添っています。

絵が生きがいに

赤瀬さんは大阪にいた高校1年の夏、部活動中の事故で頸髄(けいずい)を損傷し、四肢まひという障がいを負いました。自力では体を動かしたり手を広げたりできないため、起床から就寝まで毎日4回のヘルパーによる介護が欠かせません。

入院中、訓練の延長で好きだった絵が上達し、次第に人に見てもらう喜びを得るようになりました。作品を描きためると、大阪や東京で個展を開催。お客さんからの感想や励ましが力になり、「描くことで自分らしく生きられる」と感じるようになりました。

平成12年に厚木に移り住み、障がい者の絵画サークル「グループ完(かん)」に入会。展示会や市内のイベントなどを中心に出品しています。明るい人柄も手伝い、作品を通じて友人やサポーターが増えていきました。

赤瀬さん作品展

フクロウと四季の絵など約15点を、市役所本庁舎正面玄関入口に展示します。ぜひご覧ください。

期間 12月1日〜15日

問広報課☎225-2040

赤瀬さんにお客さんの反応などを伝える本庄さん(左)

サポーターの力

グループ完の会議や展示会では、神奈川工科大学のボランティアサークル「LoCoRo(ロコロ)」のメンバーが準備や受け付けなどをサポートします。連絡係を務める小関(おぜき)朋奈さん(20)は、「障がい者だからではなく、一人の人としてお手伝いしたいだけ。皆さんが描く生き生きとした絵に、努力すれば何でもできるんだと勇気付けられています」と笑顔で話します。

市内のカフェで赤瀬さんの作品を飾る本庄としえさん(45)は、店内で絵の販売を仲介したり、赤瀬さんがお客さんと交流を持てるよう、感想やリクエストが書けるノートを置いたりして、活動を支えています。「チャレンジし続けることや、ささいなことにも常に感謝を忘れないことなど、赤瀬さんから教わっていることはたくさんある。応援する以上に、私の方が励まされています」と、赤瀬さんから受ける影響を力に変えています。

温かいメッセージがつづられるノート

カフェにはプロフィルなども置かれる

サークルの準備を手伝う小関さん

多くの人の心に足跡を

「障がいは不便だけど、不幸じゃない」。赤瀬さんは、そう断言します。「支えてくれる大切な友達ができたし、街中でも、困ってたらみんなが助けてくれる。幸せだし、ありがたいよね」。感謝の気持ちは、絵に表すことに決めています。

「いつか人生を終えても、絵を通してたくさんの人の心の中に生き続けたい」と夢を語る赤瀬さん。たくさんのサポーターと共に、挑戦の日々を送ります。

特集 共に生きる

就労を支える

生きていく上で、多くの障がい者が直面する問題の一つに、「働くこと」があります。障がいを理由に就職先が限られ、就労は果たせても環境になじめず長続きしない場合も少なくありません。そんな中、市内には、障がい者が健常者と同じように働ける職場づくりに取り組む会社がありました。

障がい者も健常者もコミュニケーションを取りながら共に業務に励む（中央が佐藤さん）

「働き手に障がい者も健常者も関係ない」。そう話すのは、三田でクリーニング工場を営む大塚祐二さん（58）です。大塚さんの会社は従業員の約12％が障がい者。雇用率2％以上という国の定める基準を大幅に上回り、県から「かながわ障害者雇用優良企業」の認証を受けています。

人間関係を築いて

大塚さんが初めて障がい者を雇用したのは平成4年。欠員の補完で一人、採用したことがきっかけでした。当時はそうした事例が珍しく、以降、職業安定所などから障がいのある求職者の紹介が相次ぎました。教え方や関わり方次第で他の従業員と変わりなく働けると実感していた大塚さんは、障がいへの知識はなかったものの採用を続け、気付いた時には現在の雇用率になっていたといいます。

「突然騒いだり、トイレに閉じこもったり、ささいな事件はよく起こるよ。それを笑い飛ばせるか、人間関係を築いた上で対等に指導できるかが大切」。大塚さんは、そう話します。事務員の大久保いずみさんは「始めは戸惑いもあったけど、個性なんだと分かってからは意識しなくなっていった」と振り返ります。身の上話や冗談を交わしながら一人一人と関係を築く大塚さんの姿は、共に働く従業員にも影響を与えていきました。

従業員への声掛けを毎日欠かさない大塚さん（左）

生産性を上げるために

普段は分け隔てなく障がい者と接する大塚さんですが、仕事を教える時は個々の性格や障がいに向き合い、教え方を工夫するよう心掛けます。「障がいがあっても、従業員である以上、お客様じゃない。企業として生産性を求めるのは当然で、いかに能力を引き出す工夫をできるかが腕の見せ所」と熱を込めます。

知的障がいがある佐藤由倫（ゆうり）さん（29）は勤め始めて約10年。ミスのない丁寧な仕事ぶりが評判で、今では全ての仕事を任されています。佐藤さんは「みんなと同じ仕事を同じように任せてもらえるのがうれしい」と笑顔を見せます。障がいの有無に関わらず、能力にしっかりと目を向けて評価する社風が、何よりもやりがいにつながっています。

共に働ける社会に

全国には、18歳以上の障がい者が約806万人います。そのうち、従業員50人以上の民間企業に勤める方はわずか5・6％。徐々に増えてはいるものの、いまだその門戸は狭いのが実情です。大塚さんは「障がいで能力を決め付けず、会社のために共に働く仲間と認め合えれば、企業にとって大きな力になる。社会全体でそうした連鎖が起きれば、雇用は自然と進んでいくはず」と力を込めます。

働き、収入を得ることは、生きる上で欠かせないこと。それは障がいがあっても同じです。企業や同僚の健常者が歩み寄ることで、障がい者がやりがいを持って働ける社会の実現につながります。

食堂も大切なコミュニケーションの場

障がい者に聞きました

Q.就労支援としてどのようなことが必要ですか

1位	職場の障がい者への理解（54.9％）
2位	職場支援機関の連携（42.8％）
3位	通勤手段の確保（39.0％）

【出典】市障害福祉サービス利用（提供）実態調査結果（平成28年）

障がい者が接客するカフェがオープン

夢を仕事にできる社会に

障がいを理由にやりたい仕事に就けず、諦めてしまう方がたくさんいます。特に、人と接する職種は、狭き門と言えます。そんな中、本厚木駅の程近くに知的障がい者が接客する全国でも数少ないカフェがオープンしました。

お客様に喜んでもらおうと接客する伊ケ崎さん（右）

運営するのは、NPO法人障碍（がい）者支援センター「鮎（あゆ）の風」です。顧問の小澤（おざわ）由紀夫さん（67）は、「障がいがあっても社会参加したいと思っている方はたくさんいる。そうした声に応えてやりがいを持ってもらうことはもちろん、多くの人に障がい者が働く姿を見てもらい、理解を深めるきっかけにしてほしかった」とカフェを選んだ理由を話します。心身に負担がかからないよう交代制で勤務する伊ケ崎（いがさき）麻里奈さん（21）は「憧れていた職業なのでうれしい」と声を弾ませます。

「障がい者にはできないと思われていることをする職場を一つでも増やしたい」という小澤さん。誰もが夢を形にできる社会の実現に取り組み続けます。

特集 共に生きる

地域の居場所を支える

地域に安心して過ごせる居場所があることは、誰にとっても大きな助けになります。困ったときや寂しいときに頼れるだけでなく、社会と関わる機会をつくり「自分は一人じゃない」と思える安心感を生み出します。ここでは、障がい者がたくさんの人と関わり過ごす、地域の居場所をつくる取り組みを紹介します。

愛情込めて育てたサツマイモは例年以上の豊作。その様子に喜ぶ奈保子さん(右)と利用者たち

「見て、こんなにおいもが採れたよ」「すごいね。ほら、こっちも」。秋晴れの青空の下、障がい者地域活動支援センター(右下欄参照)「白根工房」の皆さんが、大きく実ったサツマイモの収穫に精を出しています。作業には、工房を利用する障がい者と職員の他に、たくさんの地域住民が手伝いに駆け付けました。工房では、日頃から障がい者と地域住民が共に過ごし、絆を深めています。

信頼が理解に

障がい者の自立や生活を支える白根工房は、今年で創設20年を迎えました。現在は知的障がいのある14人の方が、農作業や刺し子の制作などを通して、働く喜びや人との関わり方を学んでいます。

優しく、時に厳しい奈保子さんは利用者にとって母親のような存在

工房を運営するのは所長の永井明さん(58)や妻の奈保子(なおこ)さん(57)の他、3人の職員です。就労や介護など多様な目的を持つ施設がある中で地域活動支援センターを選んだのは、「障がい者に限らず、いろんな人が集える場所にしたい」という思いからでした。

「初めは施設が地域に受け入れられるか不安だった」という奈保子さん。理解を得るには、まず自分たちが信頼してもらおうと、自治会や民生委員などの地域活動に積極的に参加しました。献身的な取り組みが実を結び、やがて地域の住民が、「自分も何か手伝えたら」と、工房に集まるようになりました。

障がい者に聞きました

Q.地域にあってほしい支え合い活動は何ですか。

1位 気軽に行ける自由な居場所づくり(34.1%)

2位 急病などの緊急時の手助け(28.0%)

3位 通院・買い物などの外出の手伝い(20.8%)

【出典】市障害福祉サービス利用(提供)実態調査結果(平成28年)

和田さんに農具の使い方を教わる松野さん(左)

地域住民の生きがいへ

永井さんと共に民生委員を務めていた和田正利さん(81)も、協力に乗り出した一人です。農業を営んでいる知識を生かして、鍬(くわ)の使い方や土の盛り方などを利用者に指導しています。「工房での活動が生きがいになっている」と話す和田さん。「ここのみんなはとても素直。一緒にいると元気をもらえる」とほほ笑みます。「皆さんの力があるから、利用者も楽しく作業ができる」と奈保子さん。地域住民の力が、大きな支えになっています。

絆をつなぐ

「和田さんたちと一緒にできるのがうれしい」と明るく話すのは、工房に通う松野浩さん(37)です。その笑顔からは、地域の居心地の良さがうかがえます。一方で、障がい者が安心して暮らし続けるためには、家族の高齢化や周囲の障がいへの理解不足などの課題が残ります。奈保子さんは「今はまだ親の支えがあっても、いずれは一人になる時が来る。その時に頼れる人や居場所にできるだけ多くつなげてあげたい」と熱を込めます。

障がい者が地域で暮らすには、生活・移動支援などはもちろん、周囲の住民の理解や支えが必要です。相手を理解するための一歩は関わり、寄り添うこと。地域が安心できる居場所であるために、障がい者と地域住民をつなぐ白根工房の活動が続いていきます。

地域の生活を支える居場所

障がい者地域活動支援センター

市内には、障がい者の居場所や生きがいをつくり、地域で生き生きと過ごせる場を提供する地域活動支援センターが五つあります。各施設が独自の催しや作業を通して、支援をしています。

施設名	所在地	問い合わせ
アジール	旭町1-15-8	☎280-5338
白根工房	妻田北4-5-56	☎296-8711
ハートラインあゆみ	中町4-6-11山口ビル201	☎259-5712
レザミ工芸	幸町1-10	☎229-0448
七沢森の家	七沢2601	☎249-6328

自慢のヘルシー料理が楽しめる

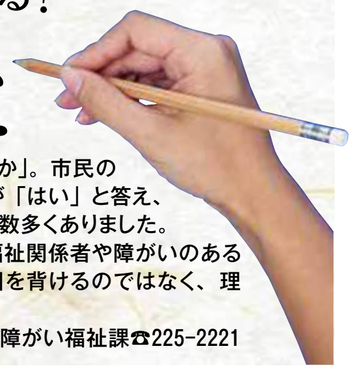
みんなの食堂(アジール)

毎月第3土曜に、誰もが足を運べる「みんなの食堂」を開催。利用者やスタッフが手作りした栄養満点のおいしい食事が楽しめます。利用者と地域住民の交流の場となっています。

問障がい福祉課☎225-2221

特集 共に生きる

あなたはどれだけ知ってる？ 障がいのこと



「街で困っている障がい者を見掛けたことがありますか」。市民の皆さん約400人にアンケートを取ったところ、46%の方が「はい」と答え、手助けしたいけどその一歩が踏み出せないという意見が数多くありました。

今回は、皆さんから寄せられた障がいへの疑問に、福祉関係者や障がいのある方がお答えします。「よく知らないから」というだけで目を背けるのではなく、理解を深めて一歩踏み出してみましょう。

問障がい福祉課☎225-2221

自閉症児・者親の会
宮本由美子さん

Q ときどき大きな声で独り言を言っている方を見掛けるけど、どのように接したらいいの。

荒木嗣美（つぐみ）さん（40）

A 自閉症の方は、気持ちを整理したい時や感情が高ぶっている時など、さまざまな要因で独り言を発します。相手に何かしてほしい、反応してほしいというわけではありませんので、温かく見守っていただきたいと思います。

POINT

みんなに知ってほしい「自閉症スペクトラム」

自閉症スペクトラムは、脳の情報処理が生まれつきうまくできない障がいです。コミュニケーションが苦手だったり、物事に対して強いこだわりを持つために少しの変化に不安や抵抗感を表したりします。幼児期までに明らかになることがほとんどで、早期から療育を受けることで生活しやすくなります。一見変わった行動をすることもありますが、他人を困らせたいわけではありません。自分と違うからといって壁をつくらず、困っていたら「どうかしましたか」と声を掛けるなど、普段通りの対応をしてください。

佐藤亜胡（あこ）さん（20）

Q 視覚障がい者が人ごみで歩きにくそうにしていたので、誘導しようと肩をたたいたらびっくりさせてしまった。どうしたら良かったの。

A 健常者でも同じですが、いきなり引っ張られたり押されたりすると、とても驚いてしまいます。命の危険などではない限りは、まずは横から優しく声を掛けると良いと思います。

誘導赤十字奉仕団
丸岡美津子さん

POINT

視覚障がい者にはこんな支援を

立ち止まって困っている人を見掛けたら

「どうかしましたか」「何かお手伝いできることはありますか」など、優しく声を掛けてください。

まちで道を聞かれたら

あいまいな表現ではなく、「右へ30㍍進んでください」といった具体的な説明を心掛けてください。

バスや電車で見掛けたら

空席がある場合は教えてください。空席が無ければ、つり革やポールなど、持つところを教えてください。

誘導する際は、白杖を持つ手の反対の手で、肘をしっかり持ってもらいましょう

障がい者基幹相談支援センター長
栗原大さん

Q 障害者差別解消法ってなに。違反すると罰則はあるの。

中島秀之さん（62）

A 行政や事業者が障がいを理由に差別することを禁止する法律です。「不当な差別的取扱い」を禁止し「合理的な配慮」を求めることで、障がいの有無に関わらず誰もが共に生きる社会を目指すために施行されました。違反をしたからといって個人への罰則などはありませんが、障がい者が社会に出やすい環境をつくり、健常者と接する中で、お互いに理解を深める機会を増やすという趣旨があります。この法律をきっかけに、相手を知る一歩としてもらえたらと思います。

POINT

「不当な差別的取扱い」とは

正当な理由なく、障がいがあるというだけでサービスの提供を拒否することや、制限をすることです。

例えば

- 車いすを利用していることで、レストランの入店を拒否された。
- 障がいがあることを伝えたら、スポーツクラブの入会を拒否された。

「合理的な配慮の不提供」とは

障がいのある人から、何らかの配慮を求められたにも関わらず、何もしないことです。

例えば

- 災害時の緊急避難先で、聴覚障がいと伝えたが、音声での情報提供しかしてくれなかった。
- 窓口で視覚障がいと伝えたが、紙のパンフレットを渡されただけだった。

山本遥輝さん（15）

Q 電車やバスの優先席では携帯の電源を切らなきゃいけないの。

A 優先席は、血流を正常にするためのペースメーカーを埋めこんでいる方も多く利用します。携帯電話が発する電波は15㌢以上近づくと、器具に誤作動を生じさせる恐れがあります。通常はマナーモードで問題ありませんが、混雑時には、不意に近づく危険性があるので、電源を切ってください。

市立病院
循環器内科部長
八木秀憲さん

POINT

外見では分かりにくい「内部障がい」

内部障がいとは、心臓や腎臓、ぼうこうなど、体の中の機能が低下または停止する障がいです。体調が悪くなりやすく、特殊な器具を体内外に装着している場合があります。外見では分かりにくいため、周りに理解してもらえないことも少なくありません。

市では、障がい福祉課や介護福祉課窓口で、支援を必要としていることを示す「ヘルプマーク」や「ヘルプカード」を配布しています。カードの裏面には障がいの特性や必要な支援が記入できます。マークを身に付けている方を見掛けたら、温かい支援をお願いします。

ヘルプマーク

ヘルプカード

市視覚障害者協会
小田長明乃さん

Q 街中で困っている障がい者を見掛けても、なんて声を掛けたらいいのか分からない。声を掛けられたくないのではと思ってしまう。

田島和子さん（76）

A 「何か手伝いましょうか」と声を掛けられたら、多くの方はうれしいと思います。私の場合はまず、「こんにちは」とあいさつしてもらえると、安心できます。性格によってサポートを断る方もいるかもしれませんが「障がい者だから」ではありません。健常者と区別せず、自然に接してもらえるとうれしいです。

POINT

障がいのある「人」としての対応を

人は誰でも、手助けが必要なときと、一人で解決できるときとがあります。中にはサポートを断る場合もあるかもしれませんが、直接の支援につながらなくても、「見てくれている」という安心感につながるので、ぜひ、声を掛けることを諦めないでください。手助けしてもらいたい事やその方法は人それぞれ。「“障がい”のある人」ではなく、「障がいのある“一人の人”」として、相手に必要な支援を考えましょう。「何か手伝わなければいけない」と気負わずに「何か手伝えることがあるかもしれない」という気持ちが大切です。

POINT

聴覚障がい者の意思をくみ取る配慮も

聴覚障がい者は見た目では分かりにくいので、車や自転車を運転する場合には、「聞こえない人が歩いているかもしれない」ということを頭の片隅に置きましょう。

また、聴覚障がい者の中には、しゃべることができない方もいます。お店で注文をするときや困っているときに意思を伝えられるよう、商品やメニューを書いた一覧の用意や、筆談ができるようにするといった、聴覚障がい者の意思をくみ取る配慮も必要です。

Q 後ろから車が来ていたので声を掛けたけど、耳が聞こえない方だったみたい。すぐに危険を知らせるにはどうしたら良いの。

中島優衣さん（17）

市聴覚障害者協会
細野浩司さん

A 私たち聴覚障がい者は、危険が迫っていても、声や音では気付けません。危険なときは、遠慮なく視線を合わせて身振り手振りで教えてもらえると助かります。

他にもこんな質問がありました

障がいについて
もっと詳しく知りたい方へ・・・

障がいのある人を理解するためのガイドブック

「この街でともに・・・」

「いろんな障がいについて知りたい」「市内にある障がい者支援団体を知りたい」など、障がいの特性や求められる支援などを分かりやすくまとめたガイドブックです。障がい福祉課窓口で配布している他、市ホームページからもご覧いただけます。

あつぎ元気Wave ケーブルTV12/1～ 広がる支援を紹介

詳しくは 厚木市 この街でともに 検索

◆障がい者マークが付いている駐車場はどんな人が使っていいの／30代・女性 ◆子どもに障がいのことをどう教えたらいいのか分からない／30代・女性 ◆みんなのトイレって健常者は使ってはいけないの／50代・男性 ◆なぜ「障がい」の「がい」を平仮名で表記するの／40代・男性 ◆ノーマライゼーションってどういう意味／20代・女性 ◆駅やお店で障がい者が困っていたから対策をしてもらいたくても、どこに相談すればいいのか分からない／50代・女性 ◆障がいのことを学びたくても、障がい者と接する機会がない／60代・男性 ◆電車でどこまでの方に席を譲ったらいいのか迷う／20代・女性 ◆車いすや白杖を利用している方を補助するためには、講座を受けたり資格を取ったりしなければいけないの／40代・女性

紙面に載せきれなかった質問の回答については、市ホームページに掲載しています。

詳しくは 広報あつぎ 共に生きる 検索

市民400人に聞きました

あなたはいくつ分かりますか？

街で見掛ける障がいに関するマーク

Q 駅やお店でいろんなマークを見掛けるけど、どういう意味があるの？

田中桂（けい）さん（19）

障がい者のための国際シンボルマーク

スロープや障がい者用トイレが設置されているなど、全ての障がい者が利用しやすい建物や施設であることを表すマークです。駐車場にこのマークがある場合は、障がい者が利用するための場所であることを示します。

「白杖（はくじょう）SOSシグナル」普及啓発マーク

認知率 66%

白杖を頭上に50㌢程度掲げている方がいたら、進んで声を掛けて支援しようと啓発するマークです。白杖を頭上に掲げているのは、障がい者が何らかの支援を求めているSOSの合図。街で見掛けたら何か手伝えることはないか、声を掛けてください。

オストメイトマーク

認知率 50%

人工肛門・ぼうこうを造設している方（オストメイト）向けの設備があることを表すマークです。トイレの入り口や案内に表示されます。見掛けた場合は、必要としている方に優先的に譲るなど、配慮をお願いします。

みんなのトイレ

認知率 83%

障がい者や高齢者など、誰でも気兼ねなく利用できるトイレであることを表す、県のマークです。車いすの方に限らず、オストメイトの方や手すりが必要な高齢者、ベビーカーを押している保護者など、どなたでも利用できます。

身体障がい者標識

認知率 58%

身体障がい者が運転する自動車に表示されているマークです。このマークを付けている車の近くを走行する時は、割り込みや幅寄せをしないようにしましょう。

聴覚障がい者標識

認知率 36%

聴覚障がい者が運転する自動車に表示されているマークです。このマークを付けている車の近くを走行する時は、割り込みや幅寄せをしないようにしましょう。

耳マーク

認知率 41%

聞こえが不自由であることを表すマークです。このマークが提示されたら、「ゆっくり話す」「筆談をする」などの配慮をしましょう。また、役所や病院などの窓口に表示がある場合は「筆談しますのでお気軽にお申し付けください」と呼び掛ける効果があります。

特集 共に生きる

共に生きるため、今できること

「障がい者と健常者が互いに理解し合うためには何が必要か」。神奈川工科大学教授で県障害者施策審議会委員などを務める小川喜道さんに伺いました。

区別せず、「気付き」を

人は誰でも、できないことや不得意なことがあります。障がい者も同じで、それぞれに得意なこと、苦手なことがあります。「障がい者だから」とことさら意識や区別をする必要はありません。「障害」という枠組みが必要なのは、福祉サービスの制度上のみのように思います。

イベントやボランティア活動などを機会に一緒に楽しみ、相手を知ろうとすることが、一番の相互理解につながります。健常者は「障がい者には助けが必要」「この障がいには、この対応」などと決め付けず、普段通りに相手との向き合い方を考え、コミュニケーションを取る中で気付きを得れば良いのです。

一方で障がい者には、福祉から離れた世界にどんどん出てきてほしいですね。障がいへのイメージや先入観は、当事者と関わることで変わるはずです。社会が環境を整えるのはもちろんですが、障がい者自身が積極的に開かれた世界に出て、たくさんの人と交流することが、世の中を変えていくのです。

当たり前をかなえたい

あゆの会が歌で手話を教えた障がい者体育大会

市内には、障がい者を支えるボランティア団体があり、会員の皆さんが活動を楽しみながら、障がい者に寄り添っています。支援の輪が大きくなるほど、「知りたい」「読みたい」「行きたい」がかないます。あなたの力を貸していただけませんか。

録音赤十字奉仕団　録音

委員長 石射 順子さん

「広報あつぎ」など市の発行物や地域の情報、書籍などを録音して、視覚障がいのある方に届けています。活動を通して「利用者のために良いものを」という思いを強くし、会員同士での読み合わせや勉強会などを重ね、納得のいく「読み」を追究しています。

利用者とじかに接することは少ないのですが、交歓会などで、「いつも楽しみに聞いています」と声を掛けてもらうことがあり、励みになります。CDやテープの先の聞き手を感じて「正確に、丁寧に、心を込めて」を心掛け、利用者の「読みたい」に応えられるようにしていきたいです。

手話サークル「あゆの会」　手話

会長 小林 廣子さん

指や目の動き、顔の表情などを使って話す手話を学んでいます。技術の向上はもちろん、学校やイベントでの普及活動にも力を注いでいます。

聴覚障がいのある方とのコミュニケーション方法は、口を大きく開けゆっくり話す「口話」や空中に文字を書く「空書」などさまざまですが、言葉と共に気持ちも伝えられるのが、手話の最大の魅力です。少しでも手話を交えることで、相手に理解を示す気持ちが伝わり、喜んでいただけます。聞こえなくても温かい「会話」が楽しめるよう、さらなる普及を目指します。

点訳赤十字奉仕団　点訳

委員長 中辻 久江さん

六つの点の組み合わせで仮名と数字、アルファベットを表す「点字」を使い、視覚障がいのある方に市の発行物や本などを届けています。レシピや時刻表といった繰り返し見るものなども、よく依頼を受けます。情報を整理してから一文字ずつ点字にするため時間はかかりますが、「文字に触れたい」という思いに応えようと頑張っています。

利用者とじかに接する機会が少ない分、常に読み手を意識して、分かりやすさを心掛けています。「読みました」「ありがとう」などと点字でお手紙を頂くととてもうれしく、励みになっています。

誘導赤十字奉仕団　誘導

委員長 松原 悦子さん

視覚障がいのある方の外出をお手伝いしています。近所から市外、県外まで、要請があればどこへでも付き添います。求められる誘導の方法は十人十色のため、マニュアルや自分のやり方を押し付けず、希望を聞いて一人一人に合わせた方法を取っています。相手を尊重し、さりげない気配りを心掛けることが大切です。

移動中は、景色や位置などを伝え、情景を思い浮かべて楽しんでもらえるよう意識しています。密なコミュニケーションが必要なので、多世代のボランティアがいることが、利用者の安心につながります。

あつぎ筆記通訳サークル「道」　要約筆記

事務局 水尾 恵子さん

聞こえにくい方にその場の話を文字にして伝える文字通訳をしています。会話の内容を書いて伝えたり、イベントや講演会でパソコンを使い、話の内容を文字にしてスクリーンに映し出したりしています。

聞こえなくても、同じようにコミュニケーションを取りたいと思うのは当然です。周りの皆さんと同時に笑って会話を楽しめるように、「速く、正しく、読みやすく」を心掛けています。要約筆記は追究すれば奥深いですが、話の内容を書いて渡すなどちょっとしたことなら誰にでもできるので、ぜひ積極的なサポートをお願いします。

体験講座参加者の声　気持ちに寄り添えるように

アイマスクを使った体験と実習

誘導ボランティア講座を受けた
山内 智子さん（旭町）

友人が全盲になったことから、何かできることはないかと思い参加しました。「見えない」疑似体験は想像以上の怖さで、支えることの大切さが分かりました。誘導される方の気持ちに少しは寄り添えるようになったと思うので、今後は困っている方を見たら、積極的に声を掛けたいです。

各ボランティアの問い合わせは、市社会福祉協議会☎225-2949へ。

Zoom Up

みんなの情報がまちを変える「スマ報（ほう）」始めました

「スマ報」は、道路の損傷や不法投棄などの身近なまちの課題を、簡単に通報できるシステムです。市では、迅速な課題解決に向け、スマートフォンを使っていつでも12月から導入。皆さんからの情報を基に、速やかな対応につなげていきます。

あつぎ 元気Wave
ケーブルTV12/1～
スマ報について紹介

「通り掛かった道路に穴が開いている」「落書きを見つけた」―。こうしたまちの課題は、これまで市の窓口に直接、または電話でお知らせいただく必要がありました。「スマ報」では、手続きを簡略化し、速やかに解決できるよう、手持ちのスマートフォンやタブレット型端末で通報する仕組みになっています。すでに運用していた外来生物の発見を通報する「写マップ」を大幅にリニューアルし、機能を強化しました。

スマートフォンでまちづくり

使い方は簡単です。スマートフォンなどでスマ報のホームページにアクセスし、写真を撮って送信するだけ（左図参照）。写真と共に位置情報が市に送られるため、現場の住所などを調べる必要はありません。送信した情報は、担当部署が受け取り、早急に確認。速やかに対応します。戸室に住む主婦の田口亜矢子さん（26）は「直接連絡するのは気が引けたけど、休日や夜間などにかかわらず情報を送れるなら便利」と、話します。

スマ報は、市民の皆さんの身の回りで生じた課題を素早く解決に導き、気軽にまちづくりに参加できる機会を提供します。

まちの魅力を発信

スマ報は、まちの課題を伝えるだけではありません。「近所で桜が咲き始めた」「絶景ポイントがあるから皆に知らせたい」など、たくさんの人に紹介・共有したい情報を発信できます。他の機能と同様、お薦めスポットの写真や位置情報が共有できるため、まちをPRするツールとしても活用できます。

一人一人が発信者になって、身近なまちの魅力やとっておきの情報をどんどん発信しましょう。

みんなでつくるまち

皆さんからの情報は、市の調査やパトロールなどでは見つけにくいまちの細かな課題や、新たな魅力の発見につながります。市では、誰もが住みやすく、住み続けたいと思うまちづくりを皆さんと共に進めていきます。

問情報政策課☎225-2459

利用は簡単　3ステップ

スマートフォンやタブレット型端末があればどなたでも利用できます。手順に沿って操作するだけで、簡単に情報が送れます。

STEP 1　利用者登録しよう

まずはスマ報サイトにアクセス。利用するには利用者登録が必要です。

◀簡単アクセスはこちらから

STEP2　送信する内容を選んで写真を撮影

道路の損傷、外来生物の発見、落書きなど、送信する内容を選んでスマートフォンで撮影。位置情報も送信するため、端末の位置情報サービス機能をオンにすることを忘れずに。

コメント欄に現場の状況を簡単に入力してください。

STEP3　撮影したコメントや写真を送信して完了

内容に間違いがないかを確認して、送信ボタンをタップ。自動的に内容が担当の窓口に送られます。

対応状況は、マイページからいつでも確認できます。

※情報提供された内容によっては対応できない場合や、時間がかかる場合もあります。

※画像は開発中のため、イメージです。

12月4日～10日は「人権週間」

一人で悩まず相談を

不当な差別やいじめなど、人権に関するさまざまな問題でお困りの際は、人権擁護委員の無料相談をご利用ください。

《無料人権窓口相談》

- **人権週間特設人権相談（市役所本庁舎1階）**
  12月6日、9時～12時、13時～16時
- **市役所本庁舎1階総合相談コーナー**
  毎月第1～4水曜、13時～16時
- **横浜地方法務局厚木支局**
  毎週火・木曜、10時～16時

問いずれも直接窓口へ。

《人権擁護委員》

市では現在、法務大臣から委嘱を受けた14人の人権擁護委員が活動し、相談などを通じて人権侵害を受けている方の救済に努めています。

問市民協働推進課☎225-2215

街のNEWS あつトピ!

交通事故の恐怖を体験
プロのスタントマンによる交通安全教室を実施

臨場感あふれる事故をスタントマンが再現

厚木中学校で10月30日、スタントマンが事故を再現する「スケアード・ストレイト教育技法」を用いた交通安全教室が実施されました。携帯電話やイヤホンを使用して自転車に乗る「ながら運転」や車両の死角によって引き起こされる事故などを実演。生徒たちは、ルールを守る大切さを学びました。

参加した生徒たちは「普段してしまいがちな違反が多く、恐怖を感じた」「自転車が加害者になることもあるので気を付けたい」と真剣な表情で話していました。

「交通死亡事故ゼロ」を目指す市は、平成31年度までに市内全13中学校で教室を開催します。

1200人が仮装パレード
本厚木駅周辺でハロウィーンイベント

毎年恒例の「あつぎハロウィーン2017」を本厚木駅周辺で開催しました。1200人が参加する仮装パレードやイベント限定のフォトスポット、お菓子がもらえるスタンプラリーなど、ハロウィーンにちなんだ催しを楽しむ子どもたちで商店街がにぎわいました。

催しは、市街地活性化のために市内の大学に通う学生たちが企画・運営したもの。参加者は「大勢でキャラクターになりきった仮装ができて楽しい」と満喫していました。

思い思いの仮装で商店街を行進した

NZ（ニュージーランド）の味を召し上がれ
食や文化を学ぶイベントを開催

NZのホストタウンである市が10月29日、NZの文化への理解を深めるイベントをアミューあつぎで開催しました。プログラムの一つとして実施した料理教室では、NZの人気料理「ベーコンエッグパイ」やサツマイモを使った伝統料理「クマラサラダ」を調理。「素材の味が生かされていておいしい」「簡単なので家でも作りたい」と好評でした。NZの自然や文化を学ぶ講座では、写真や動画で現地の様子が紹介され、参加者は大いに関心を深めていました。

参加した織田桃子さん（17）は「留学を考えているので、食や歴史などを学べて勉強になった」と笑顔で話していました。

NZの定番料理の作り方を教わる参加者たち

秋深まる自然を満喫
飯山・七沢で秋の魅力を楽しむ祭り

11月3日、秋ならではの自然や催しを楽しめる「あつぎ飯山秋の花まつり」と「あつぎ七沢森のまつり」が開催されました。紅葉やザルギクで彩られた会場で、来場者は地元の伝統芸能や郷土料理を堪能しました。

催しは、温泉や自然などの観光資源をPRしようと毎年開催。秋の花まつりでは、赤や白、黄色など、鮮やかに咲く約5千本のザルギクが来場者を出迎えました。ステージでは、地元の郷土芸能である飯山白龍（はくりゅう）太鼓の演奏や白龍の舞が披露されました。森のまつりでは、地元温泉組合が作る名物料理「千人猪鍋（ししなべ）」や地元の温泉を使った足湯、丸太切り体験などを実施。たくさんの人が厚木の秋の魅力を存分に味わっていました。

秋の花まつり会場一面に咲き誇るザルギク

ATSUGI（アツギ）×NEWZEALAND（ニュージーランド） ホストタウン通信

NZ（ニュージーランド） 写真展を開催

現地で見た感動を写真に込める中村さん

11月9日～21日、NZの星空やオーロラなどの自然の魅力が楽しめる写真展をアミューあつぎで開催しました。写真展は、NZに親しみを感じてもらおうと市が実施した「Feel of NZ（フィール オブ NZ）」のプログラムの一つです。

展示された40点の写真は、NZダニーデン市在住の写真家・中村太一（たいち）さん（45）が撮影したものです。中村さんは、世界を旅する中で出会ったNZの壮観な光景に感動し、平成15年に移住を決意。現在はオーロラを中心に、NZの風景の撮影に没頭する日々を送っています。

国内での写真展開催は今回が初となった中村さん。来場者に写真の撮り方や撮影場所などを丁寧に説明していました。来場者は「こんなに美しいなんて」「行ってみたくなった」など、作品中の風景に見とれていました。

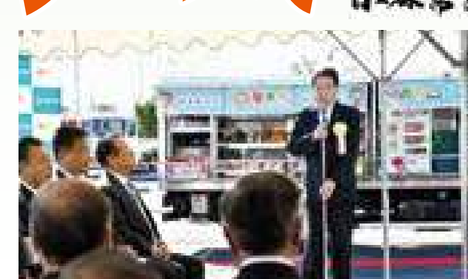
2020年東京オリンピック・パラリンピック（東京五輪）に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業などを紹介します。

問企画政策課 ☎225-2451

ひと まち 元気
厚木市長 小林常良

「のんちゃん号」という名前をご存じですか。昭和40～60年代に、JAあつぎが運行していた移動販売車の名前です。巡回してくるトラックに主婦や子どもたちが駆け寄っていく様子は、私にとって古き良き時代の思い出です。

JAあつぎが11月から、移動販売車「ゆめみちゃん号」の運行を始めました。本市と結んだ「高齢者等の買い物支援に関する協定」に基づくサービスです。右肩上がりに経済が成長する時代に、一度は役割を終えたのんちゃん号。超高齢社会を迎え、買い物に困る人を救うために名前を変えて復活しました。


ゆめみちゃん号の出発式であいさつ

お年寄りの買い物問題は、高齢化が進む中で避けられません。インターネット通販の利用は伸びていますが、多くの高齢者にとって高いハードルといわざるを得ないでしょう。

市の高齢者を対象としたアンケートでは、買い物などで「足の確保」を望む声が多く寄せられました。大きな使命を背負うゆめみちゃん号が、高齢者の皆さんの救世主となり、地域コミュニティーの絆をさらに深める原動力となってくれることを期待しています。

タウンガイド

12月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

1月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

マイタウンクラブ

印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「申」と記されたものは、申し込みもできます。

申=申し込み　問=問い合わせ
☎=電話番号　FAX=ファクス番号
✉=Eメール　HP=市ホームページ
Ⓖ=GENKIポイント対象事業

あつぎDEクリスマス

12月16日、12時～17時。厚木公園。市内5大学の学生によるクリスマスイベント。ステージイベントや抽選会など。問商業にぎわい課☎225-2840。Ⓖ1

アミューあつぎに「夢未市」が特別出店

12月16日、10時～14時。アミューあつぎ。JAあつぎ農産物直売所「夢未市」が特別出店。新鮮野菜や厚木産の米「キヌヒカリ」などの販売。問商業にぎわい課☎225-2834。Ⓖ1

開催100回記念 あつぎ青春劇場落語会

1月27日、13時～15時30分。アミューあつぎ。出演は三遊亭まん坊、林家なな子、林家錦平。定員110人。1000円。申12月11・12日、11時～15時にアミューあつぎでチケットを販売。先着順。問商業にぎわい課☎225-2834。Ⓖ1

アミューあつぎ ハンドメイドマルシェ

12月23日、10時～15時。アミューあつぎ。約20店舗によるアクセサリーや洋服、雑貨などの手作り品の販売、ワークショップなど。問商業にぎわい課☎225-2834。Ⓖ1

お腹が凹む最新筋トレ講座

1月13日、**講座編**=13時30分～14時30分。市内在住の40歳～64歳100人。**実践編**=15時～16時30分。市内在住の40歳～64歳の男性30人。トレーナーからお腹の脂肪を落とす方法を学ぶ。

いずれも会場はあつぎ市民交流プラザ。無料。申12月1日から健康づくり課☎225-2201へ。託児あり（定員10人。12月28日までに要予約）。先着順。Ⓖ10

後期危険物取扱者保安講習会

1月25日。**第1種（給油取扱所）**=9時40分～12時40分。**第3種（一般）**=13時20分～16時20分。文化会館。危険物関係法令や災害予防対策、施設の安全管理などの講習。危険物取扱者免状を持ち、危険物を取り扱っている方各270人。4700円（県収入証紙）。申消防本部や各分署などにある申請書に必要事項を書き、12月1日～1月9日（消印有効）に〒238-0011横須賀市米が浜通1-7-2-204県危険物安全協会☎046-826-2177へ。先着順。問予防課☎223-9369。Ⓖ1

若者・女性等就職マッチング支援参加者募集説明会

12月13・21日、1月10・16・18日。①10時～②14時～。パソナ厚木支店。正社員を目指す方と市内企業とのマッチング支援の説明会。一般求職者。無料。申各回前日までにパソナ厚木支店☎297-3010へ。問産業振興課☎225-2830。Ⓖ1

こどもえいがかい

12月25日、①11時～11時35分=「ムーミンパペットアニメーション・犬のセドリック」「ブレーメンの音楽隊」②14時～15時35分=「くるみ割り人形」。中央図書館。各回3歳以上100人（幼児は保護者同伴）。無料。申当日直接会場へ。問中央図書館☎223-0033。

市立病院職員を募集

■看護職員

《対象》昭和58年4月2日以降生まれで、看護師の免許を持つまたは平成30年実施の試験で取得見込みの方35人。

■医療事務職員

《対象》昭和38年4月2日～昭和58年4月1日生まれで200床以上の病院での医療事務や地域医療支援業務の経験が15年以上継続してある方若干名。

いずれも試験日は1月14日。申し込みは、市立病院や市役所本庁舎、本厚木・愛甲石田駅連絡所にある申込書（市立病院ホームページからもダウンロード可）に必要事項を書き、直接または郵送で、1月4日（消印有効）までに〒243-8588水引1-16-36病院総務課☎221-1570へ。

飯山楽菜園の新規利用者を募集

農家の指導を受けながら野菜作りができる体験型農園「飯山楽菜園」の新規利用者を募集します。

《場所》飯山3588ほか**《募集区画》**60区画**《料金》**3万8千円（種・苗・農機具代など含む）**《利用期間》**平成30年3月中旬～平成31年1月末。申電話またはファクスに〒住所、氏名、電話番号を書き、1月31日までに飯山楽菜園管理組合・志村☎・FAX241-1946へ。抽選。12月1日～25日の9時～16時に農園見学あり（要予約）。問農業政策課☎225-2800。

12月11日～20日は年末の交通事故防止運動

年末は交通量や飲酒の機会が増加し、交通事故の多発が予想されます。市民一人一人が交通ルールの順守と交通マナーの向上に取り組み、事故防止に努めましょう。

■交通安全市民総ぐるみ大会

12月9日、13時30分～15時30分。文化会館。交通安全功労者などの表彰や国際レーシングドライバーによる交通安全講話。定員350人。無料。申当日直接会場へ。先着順。

■年末の交通事故防止パレード

12月16日、13時～14時。2017ミスユニバースKANAGAWA準グランプリ受賞者を一日警察署長として迎え、厚木中央公園や本厚木駅前などをパレード。

いずれも問い合わせは交通安全課☎225-2760。Ⓖ1

社会保険料控除の対象となる保険料額の通知

平成29年中に納めた①国民健康保険料②後期高齢者医療保険料③介護保険料は、所得税や市・県民税の申告時に社会保険料控除の対象となります（対象者には1月中旬にハガキを発送）。問①国保年金課☎225-2123②☎225-2223③介護福祉課☎225-2393。

みんなの声でつくるまち

市では次の内容について、皆さんの意見をお聞きします。

《パブリックコメント》

■環境基本条例の改正

《閲覧期間》12月1日～1月4日。問環境政策課☎225-2746・FAX223-1668・✉3100@city.atsugi.kanagawa.jp

■市教育大綱の改正

《閲覧期間》12月1日～1月4日。問企画政策課☎225-2450・FAX225-3732・✉1100@city.atsugi.kanagawa.jp

■第3次男女共同参画計画の策定

《閲覧期間》12月15日～1月15日。問市民協働推進課☎225-2215・FAX221-0275・✉2800@city.atsugi.kanagawa.jp

いずれも閲覧場所は各課窓口、市政情報コーナー、公民館、本厚木・愛甲石田駅連絡所、保健福祉センター、中央図書館、あつぎ市民交流プラザ、HP。応募資格は、市内在住在勤在学の方または市内で活動する個人・法人・団体。応募方法は、閲覧場所にある用紙を備え付けの「わたしの提案」箱に投函するか、直接または郵送、ファクス、Eメールで問い合わせ先へ。

ホット インターネットモニターからの意見を紹介

いいメール Hot E Mail

厚木市 インターネットモニター 検索

11月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆多くの人が安心・安全の取り組みに参加していることを知り、機会があれば参加したいと思った／30代女性◆私たちがまちづくりに望むことがどのように市政にくみ取られているのか興味が湧いた／40代女性◆まちづくりにはそこに住む住民の意見が必要不可欠。もっと気軽に市民の声が届く方法を考えてほしい／70代以上男性◆あつトピは意外なニュースが掲載されることもあり、いつも楽しみに読んでいる／70代以上女性

編集後記

特集の取材で、市内企業に勤める聴覚障がいのある男性に話を伺ったところ、「しゃべれないから」と作文を書いてきてくださいました。タイトルは「幸」。そこには、障がいによる苦労を差し置き、周りから認められる幸せや会社への感謝が詰まっていました。同席した上司が作文を読んだ時に見せた、うれしそうで、誇らしげな笑顔に、障がい者と健常者が共に生きる社会の一端を垣間見た気がしました／佐久間

地域医療の中心を担う病院へ

市立病院全面オープン 12月9日

平成24年から始まった市立病院の工事がこのほど完了し、全面オープンします。最先端医療機器や専門医が充実し、診療科目も15科目から27科目に増えました。他の医療機関などと連携し、高度な医療を提供することで、市民の皆さんに信頼される地域の拠点病院を目指します。

新病院の主な特長

- ■県から地域医療支援病院(※)に指定
- ■脳卒中、心筋梗塞の診療体制を充実
- ■救急搬送患者の受け入れを強化
- ■駐車場を108台から180台（有料）へ拡大

※かかりつけ医などでは対応が困難な治療や検査、手術などを行い、地域の医療機関を支援する病院

あつぎ 元気Wave
ケーブルTV12/1～
新病院を紹介

血液浄化センター（人工透析28床）を新設

小児科・産科を充実

最先端の医療機器を導入

健康で元気に暮らせるまちへ

厚木市長 **小林 常良**

新しい市立病院が、5年間にわたる工事を終えてグランドオープンを迎えます。多くの皆さまにご迷惑をお掛けした現地での建て替え、県立病院時代の地中埋設物の発見、大量のアスベストの使用など、紆余曲折を乗り越えての完成には感慨もひとしおです。大変お待たせしました。新病院には、高度医療を実現する最新の医療機器や設備を整えました。一人一人に寄り添ったきめ細かな診療で、市民の皆さんの生命や健康を守ってまいります。

問市立病院☎221-1570（代表）

自然歳時記

ヒヨドリ

ヒヨドリ科

全長 27.5 ㌢ほどで尾が長い中形の鳥。「ヒィーヨ、ヒィーヨ」とよく鳴き、庭先など身近な所でも見られる。昆虫やトカゲ、秋は柿やミカンをよく食べる。／中荻野の畑で見つけた。　写真・文／吉田文雄

木枯らしが吹き、黄色やオレンジに染まった柿の葉が地面を覆い美しい。「コンコンコツコツ」とコゲラが太めの枝を突くと残っていた柿の葉は舞いながら静かに落ちていった。

たわわに実った熟した柿を、スズメたちは争うこともなくおいしそうに食べていた。「ヒィーヨ、ヒィーヨ」と遠くでのどかに鳴いていたヒヨドリが、いつの間にかそばに来ていた。スズメは小声でおしゃべりしながら相変わらず柿の実をついばんでいた。

突然ヒヨドリが「ピィーヨ」と一声叫ぶと、スズメたちはクモの子を散らすように慌てふためいて逃げた。ヒヨドリは少し食べると、一緒に食べればよかったと反省したように「ヒィー」と力なく鳴き、静かに飛び去った。

厚木市の人口（11月1日現在）　世帯数 9万8216世帯（前月比71世帯増）　人口 22万5748人（前月比55人増）　男11万6692人・女10万9056人

「広報あつぎ」では、自主財源確保のため広告掲載事業を実施しています。広告掲載の申し込みは㈱横浜メディアアド☎045-450-1804へ。